

令和 3 年度

七宗町教育委員会の点検・評価報告書

〈令和 4 年度実施〉

七宗町教育委員会

令和3年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
1	教育委員会活動 目標:教育委員会の活性化	教育委員会会議	年間9回の教育委員会会議を実施。 11月5日に町長との七宗町総合教育会議を実施。	令和4年度使用中学校教科用図書の岐阜県可茂地区採択協議会での選定に対し採択の決定を協議した。また、教育委員会全体の問題点や課題について意見交換をし、情報の共有化を図った。 11月5日に総合教育会議を開催し、七宗町の教育全般について意見交換をした。	A
		調査及び研修		教育委員の自己研修を行うため毎年各種研修などに出席していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止となり参加できなかった。(加茂郡教育振興協議会・加茂郡地教連教育施設等研修視察・岐阜県市町村教育委員会連合研究総会・可茂地区市町村教育委員研修会等)	C
		学校訪問・行事等の参加	保育園、小中学校への教育委員訪問を行い、教育現場の状況の把握、今後の指導・講評等を行った。	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、各種式典・行事が中止や規模縮小により出席することができなかった。 学校訪問は実施することができ、保育園・学校の状況を把握し、指導・講評を行った。 今年度も加茂郡体育大会が中止になったため社会体育の状況を見ることができなかった。	B
2	義務教育振興事業 目標:安全安心な教育環境	心の相談・スクールガードリーダー及び教科支援員の配備	各校の状況に応じ相談員・支援員・スクールガードリーダーを配備し安全・安心な学校生活を送れるよう環境を整えた。	心の相談員(1名)との定期的な懇談を通して、危機管理や児童生徒理解に対する意識を更に深めた。町支援員(学習支援事業・小学校4名、教科支援員・中学校2名)を配置。スクールガードリーダー事業を町単独で実施している。	A
		山村留学制度	町ホームページを更新し山村留学生募集中であることをPRした。また、名古屋のアンテナショップや東京の岐阜事務所へリーフレットを送付し掲示依頼をした。	問い合わせは数件あるが、移住はない。今後もPRを続けていく。	B
		校長会・教頭会等の負担金及び研修・大会への補助金交付	各種研修会の負担金を交付し、教員の指導力アップと特色ある教育活動の推進に役立てている。	負担金の交付により、教員の指導力アップや教育の振興を図った。集合研修からオンライン研修に変更するなど工夫し感染予防にも心がけて実施した。	A
		教職員住宅・山村留学住宅の施設管理	教職員住宅の維持管理を実施した。 上麻生:シロアリ駆除、玄関回り床修繕 神淵:天井仕上げ材修繕 年3回の草刈りを実施	上麻生教職員住宅はシロアリにより玄関回りの床板が腐食していたので、全室のシロアリ駆除を行いD号室の床板の張替を行った。神淵教職員住宅は湿気により、天井のクロスが剥がれてしまったので修繕をした。上麻生教職員住宅のC号室は住める状況ではなく空き家になっているため、入居してもらえるように修繕する必要がある。 シルバー人材センターへ委託し草刈りを年3回実施した。	B

令和3年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
		ALT事業	保育園から中学生までを対象に英語指導助手を配置した(契約形態「業務委託契約」)。	英語(小3, 4年外国語活動)の授業数の増加に対応するように令和元年度からALTを1名増員し2名配置している。また、小学校低学年に週1時間を割り当てられるよう計画している。	B
		特別支援教育就学奨励事業・ 準要保護児童生徒援助事業	小中特別支援学級通級者の保護者に対し学用品・給食費・旅行費等を援助する。準要保護児童生徒を認定し通学用品・学用品・給食費・修学旅行費を援助する。	特別支援教育就学奨励事業につきましては、3名の保護者に援助した、準要保護児童生徒援助事業については、14名の保護者に援助した。	A
		通学バス運営事業	通学距離によりスクールバス2台及び路線バスを利用している。	登下校時の安全性を高め、児童生徒が安心・安全に登下校できるよう今後も継続していく。また、コロナウイルス感染症対策としてバス内が密にならないように、増便対応をした。	A
3	学校施設管理事業 目標:安全安心な教育環境	教育施設の維持管理	小学校2校は老朽化が進み施設等の修繕が必要。中学校2校は築後20年を迎えようとしており暖房器具や放送機器、防火シャッター等の修繕がでてきている。	小学校2校については、156万円余りの小規模工事や修繕を実施した。また、中学校2校についても、132万円余りの小規模工事や修繕を行い機能強化に努めたが、雨漏りや壁のヒビなど今後も修繕が必要となる	B
		給食施設	学校給食衛生管理基準により、安全安心な給食を供給できるよう努めている。	調理員に対する衛生管理研修等に参加予定だったが、可茂地区や県の研修が新型コロナウイルス感染症対策により開催されなかったり、オンラインでの開催であったため、新規調理員に対してもセンター内で食中毒・異物混入の防止対策など確認を実施し安全な給食提供を行った。 基準に適合するよう定期点検による施設の維持管理を適切に実施しているが、今後機械装置の耐用年数を考慮し、施設運用を行う必要がある。	C
		学校給食運搬事業	シルバー人材センターに委託している。	配送運転手の一部交代があったが、安全運転の徹底及び給食配送時の衛生面に厳重な注意を払うことにより、安全安心な提供を可能とした。ただし、配送車両の老朽化により更新を検討する必要がある。	B

令和3年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
4	小中学校教育指導全般 目標:感動ある学校教育の実現を目指す支援の充実	学校教育の方針と重点	学校教育の方針と重点について、各校で評価し課題や問題等を明確にし感動の教育実現のための具体的方向を確認し実施した。	各校においてコロナ禍の中で教育活動を工夫しながら進めた。自校評価・学校評価等において、「校長を中心に、地域の信託に応える明るく活力ある学校づくり」に努力したことが表れている。しかし、保護者からの評価において児童生徒との差異が見られる。今後も、地域とともにある学校としての成果や課題を明確にし、国や県の教育の方向をもとに、教育長、教育委員会の方針にそって、「感動の教育」の実現のために改善を図る必要がある。	B
		教科・生徒指導、教育相談、特別支援教育に関すること。	基礎学力定着支援事業12年目になり、プロジェクト委員会を中心に町4校の研究実践を継続。3年度中学校の学習指導要領完全実施を受け、新しい時代を生きる子供たちに必要な力をどのように育てるかを意識した授業実践に取り組んだ。問題行動や不登校の対応を継続し、特別支援教育も保・小・中の繋がりにより支援強化を図った。	今年度の研究実践校(上麻生小学校)による町の公表会を各校からの参観者人数を制限しながらも実施できた。その中で学習指導要領で整理された「3つの柱」と七宗町の基礎学力とのかかわりについて、捉えなおす機会となり、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた各校の授業実践は継続して積み上げた。いじめ事案の認知件数は小学校20件(2年度16件)、中学校4件(2年度2件)と小学校の認知件数が増えたが、昨年度の事案は1件を除き「解消」としていることから成果ととらえる。不登校の児童生徒は小学校0名、中学校2名(不登校傾向1名)いるが、町教委と学校、町相談員と連携を図り、組織立って関わっていき、少しずつ改善を図ることができた。障がいのある子どもに対する早期からの一貫した教育支援のために「七宗町教育支援の手引き」(令和3年度版)を作成し、年間の流れを明確にした。	A
		進路指導・図書教育	発達段階による生き方・キャリア指導ができた。子ども読書活動推進計画(三次計画策定2年目)がスタートした。	町内の地域の方には、感染防止対策を徹底しながら園・学校に入ってもらえるよう努めた。中学校の「ようこそ先輩」講話として、地域の人材を生かすことを通して、子どもたちが将来の生き方を考える機会をICTを活用した「オンライン講話」という新しい形で実現させた。図書館教育では、これまで行ってきたボランティアサークルによる「読み聞かせ」ができなかった。令和3年度の可茂地区学校図書館教育賞は、神淵中学校が「優秀賞」を受賞した。令和4年度文部科学大臣表彰「子供の読書活動優秀実践校」に上麻生中学校を推薦した。	B

令和3年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
		学校保健・安全	養教部会中心に保健事業、保健活動の交流ができた。望ましい生活習慣の定着によりすっきりお目ざめキャンペーンを小中合同で実施した。保育園・生がい健康センターにリーフレットを配布して共通理解を図った。	4校がそろって「早寝早起き朝ごはん」「ノーメディア」に取り組み、家庭も巻き込んだ形でキャンペーンを実施できた。しかし、4月の町教振総会やPTA総会、学級懇談会の中止したことで、すっきりお目ざめキャンペーンの取組を町内教職員・保育士、保護者で共通理解を図ることが十分にできなかった。しかし、「養護教諭部会」が作成しているリーフレットを保育園や生がい健康センターと共有し、保護者に啓発した。休日や長期休業中のメディアに触れる時間が増えていることへの対策を今後考えていく必要がある。	B
		社会科副読本の策定(九訂版)	令和3年度末「わたしたちの町ひちそう」九訂版策定完了を目指し、編集作業を実施した。	学習指導要領改訂に伴い、これまでの副読本を全面改訂するため、年間2回の委員会を3回に増やして、編集作業を進めた。2小学校の教頭先生を中心に編集を進め、3月中旬に完成した。	A
		学校教育振興会に関する事	4月総会は中止としたが公表会(町内職員のみ)は実施した。公表会については、学校内で参加人数を制限して研究会を実施した。校長会をはじめとした各部会は例年通り情報交流など感染防止に努めて活動できた。	総会で教育長から町内職員に対して講話をすることができなかった、上麻生小学校の公表会は、参加者を小中学校の職員に限定し実施した。また、校長会、教頭会、教務主任会等、年間40近くの会を行い、情報の共有、方向性の確認を行うことができた。	A
		児童生徒の就学・転出入に関する事。 スポーツ振興センター事務に関する事。	学校教育法の定めにより適正に処理した。 日本スポーツ振興センターの定めにより適正に処理した。	事務処理等、適正かつ円滑に処理した。保護者への給付金処理をスムーズにするために事務手続きの仕方を改善した。(通帳を廃止し、歳計外として給付金を処理する方法に改善)	A
5	子育て支援事業 目標:子育て支援の充実	保育園に関する事	・町広報誌、ポスター、各通信等で入園の情報を提供し、途中の入園も随時受け付け、待機児童はなかった。 ・多子世帯の経済的負担の軽減を図るため、対象者に対する減免を行った。 ・第1保育園 高圧ケーブルの取替、プール用メッシュカバーの購入を行った。 ・第2保育園 園児用・職員用トイレの改修を行った。	・子ども・子育て支援制度について保護者理解も定着してきて、入所手続き等の確にすることができた。 ・3歳以上児の園児数に比べ、未満児の保育利用が増えた。今後は、未満児の待機児童も出てくる可能性がある。0歳児から預ける保護者も増えてきているため、保育室の改善や職員の体制・数も必要になってくるのではと思われる。	B

令和3年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
		乳幼児期家庭教育学級	・学級の一本化に伴い、神淵・上麻生両地区から役員を選出し、親の交流に重点を置き活動内容を計画する。 ・子育て支援センターや保育園家庭教育学級とも連携して活動内容の充実に努めた。	・新型コロナウイルス感染症防止対策のため、計画通り行事を行うことが出来なかったが、三密に気をつけ、子育て支援センターと連携をとりながら、活動内容を工夫して進めることができた。	A
		児童クラブに関すること	・各小学校区に、放課後児童クラブを設置し実施した。 ・放課後児童支援員認定資格研修や各種研修への積極的参加を呼びかけた。	・放課後児童クラブの利用者は、上麻生地区のみであった。 ・夏期・春期児童クラブの利用希望者を1年生から6年生までの受け入れにして実施。感染症対策には十分注意して行うことができた。夏季児童クラブの利用人数が定員を上回ってきているため、支援員、補助員の確保をしていきたい。	B
		要保護児童・DVに関すること	・代表者会議等を開催し現状の情報共有を図った。また、継続案件について関係機関との連携を密にできた。	・代表者会議は新型コロナウイルス感染症の影響で開催できなかったが、定期的に、実務者会議・ケース会議等開き、町内の情報を共有し、対応できた。	A
		子育て支援センターに関すること	・託児ボランティアは感染症防止のため中止した。 ・支援事業に未就園児親子が気軽に参加し、子育て相談ができるように努めた。 ・ちびっ子ハウス・コミュニティーセンター等を利用して、11月より絵本の読み聞かせを企画し、センター便りで知らせた。	・新型コロナウイルス感染症防止ため、託児ボランティアの利用を中止した。 ・年齢別のりんごクラブでは2回にわけ、実施することができた。様々な事業に参加する親子も増え、日頃の悩みなど聞くことが出来た。絵本の読み聞かせに参加する親子が増えた。今後も親子が集まれる機会を工夫していきたい。	A
6	社会教育全般 目標:生きがいと感動できる自己実現を目指す社会教育の推進	社会教育審議委員会、コミュニティーセンター運営委員会に関すること。	令和3年度は1回の合同会議を開催し、岐阜県社会教育推進大会や可茂地区社会教育振興大会や研修会にオンラインで参加した。	合同で会議を開催し、県や可茂地区の大会や研修会は新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインで開催されたため、役場に集まり参加した。	A
		社会教育施設維持管理に関すること。	各施設の保守・点検を行い維持管理を行った。必要に応じ施設の修繕や備品整備を行った。	木の国七宗コミュニティーセンター外壁改修工事及び神淵コミュニティーセンター屋上防水工事を行った。	A

令和3年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
		予算に関すること。	各事業等精査を行い経費削減に努めている。	予算管理を徹底し適正に予算を執行しているが、施設の老朽化に伴い修繕箇所が増えてくる。	B
		子ども会育成会に関すること。	子ども会育成会で指導員会を行った。	林間学校や子どもフェスティバルは開催を検討したが、新型コロナウイルス感染症のため中止とした。	B
		成人式に関すること。	神渕コミュニティーセンターにおいて成人式を行い、上麻生中卒業生16人、神渕中卒業生10人の参加者であった。	新型コロナウイルス感染症のため、式典を短縮して行った。また恩師との懇談も中止とした。	A
		立志のつどいに関すること。	上麻生中学校体育館において神渕中13人、上麻生中13人の中学2年生が将来への志を述べた。	中学2年生の生徒は志を立派に述べていたが、新型コロナウイルス感染症のため、保護者のみの参観となった。	A
		文化協会に関すること。	文化協会は7団体(会員60名)で活動した。また、役員会や代表者会を開催して各種行事について話し合い、文化協会だよりを発行した。	高齢化等により年々会員が減少している。また、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、視察研修及び文化のつどいが行えなかった。しかし、各単位の団体では感染状況を見ながら活動していただいた。	B
		文化財保護に関すること。	国指定2件、県指定4件、町指定15件の文化財保有。国指定文化財保護巡視員(土屋茂氏)により巡回活動を行ってもらった。文化財審議会を開催した。	文化財審議会を1回開催し、現在の文化財の状況について話し合った。また、新型コロナウイルス感染症のため町内の文化財の視察は中止とした。	B
		民俗資料保存に関すること。	旧診療所に保管してあったが、旧診療所解体とともに里山クラブに維持管理を委託して、現在葛屋の倉庫に保管してある。	里山クラブに維持管理を委託し、整理や補修を行った。また、神渕コミュニティーセンターに展示し活用も行った。	A
		視聴覚に関すること。	可茂広域行政事務組合視聴覚ライブラリーは26年度に廃止されたが、DVD・16ミリフィルム・VHSは美濃加茂市や可児市が引き継ぎ、市町村の行事で活用することが出来る。	今のところは美濃加茂市・可児市が引き継いでいるが、16ミリフィルムなどは劣化するため子どもたちの記憶に残るように意識的に活用できるように務めたい。	C
7	生涯学習の推進 目標:生涯学習講座など住民や会員の要望を受け入れながら自主的な学習活動の充実	生涯学習講座の計画に関すること。	アンケート結果により、木の国七宗コミュニティーセンターで13講座、神渕コミュニティーセンターで3講座の計16講座開催した。	町独自の生涯学習講座を募集し、各講座の活力増強を図る。新規の講座ばかりで無く同じ講座の継続の要望がある。今後もニーズに合った講座を提供していきたい。	A

令和3年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
		生涯学習まつりに関すること。	神湊地区・上麻生地区ともに、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった。 神湊:2/26, 27(2日間)中止 上麻生:3/5, 3/6(2日間)中止	神湊地区・上麻生地区ともに協議した結果、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になったが、サークル活動の成果は常設展示スペースを使用し行った。今後新型コロナウイルス感染症の状況を見て開催して行きたい。	B
		いきいきセミナーに関すること。	「体を動かしたり・料理を作ったり・町外でいろんな体験をしたり！心と体の健康づくりを図り、仲間と楽しく学びましょう。」を目的に参加者を募り、45名の申し込みがあった。	大勢の申込者があり、合計8回行った。新型コロナウイルス感染症の影響で開催できなかった回もあったが、その他の回は感染予防を図って行うことができた。	A
		図書室・図書の購入に関すること。	七宗町子ども読書活動推進委員会や可茂地区公民館図書室、県図書室と連携し意見交換した。神湊コミュニティセンター図書室ではキッズスペース、木の国七宗コミュニティセンター図書室では学習スペースを充実させ、それぞれ新たに70冊以上の図書を配架し配置換えや整理を行った。	新刊の入荷や活用について広報のしやくなげで周知をしている。学校図書室との連携を強化し双方が有効活用できるようにしている。	A
		家庭教育学級 1. 手引きの作成	「家族みんなで、心豊かでたくましい子に育てよう」を町の実践主題として各学級の方角を確認し、課題を掲げ活動を計画し、運営するよう依頼した。	新型コロナウイルス感染症のため開催できなかった行事もあったが、開催することができた学級では、親子や同年齢の子をもつ親同士の交流を深めることができ、子育ての悩みや不安などを気軽に話し合うことが出来た。	B
		2. 保小中の計画・実施の管理	それぞれの単位で運営を行った。保育園と中学校は全保護者対象に小学校は1年生の保護者を中心として行っている。	各学級とも実施計画書の確認をしているが、後は園長・教頭任せになっている。コロナ禍でも各学級新型コロナウイルス感染症に配慮し家庭での実践を多くし工夫して取り組んでもらった。	A
		3. 乳幼児期家庭教育学級との連携	家庭教育学級は親26名、子34名で実施した。乳幼児期子育て推進委員会を定期的に行い状況把握や情報共有した。しつけを共通の課題とし取り組んでいる。	令和3年度も新型コロナウイルス感染症のため、連携した行事はできなかったが、今後も状況把握や情報共有をして連携をとって行きたい。	B
		青少年育成町民会議 1. 青少年育成町民会議の基本方針の作成	家庭・学校・地域住民が相互に連携しつながりを深め、青少年の手本となるようモラルの向上に努め、地域の教育力の向上を高めるように努力している。	コロナ禍ではあったが、各部会を中心に活動できた。	A

令和3年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
		2. 各部会の活動と実態の把握	3部会で組織し、総会及び各部会を開催した。青少年部会：部会、家庭教育部会：家庭の日のPR・読書の啓発、地域部会：安全研修会を開催した。	3部会とも開催できたが新型コロナウイルス感染症のため開催できなかった行事もあった。地域部会の安全研修会は講師に岐阜聖徳大学短期大学部教授の徳広圭子氏を招いて「ひきこもり」にやさしい地域づくりを演題に開催し、多くの町民に聞いてもらった。	A
		生涯学習情報誌の発行 1. 地域の情報収集と情報提供	いきいきセミナーの行事等を「しゃくなげ」に掲載した。また、写真による記録に努めた。	情報収集・情報発信ができた。HP等を活用し今まで以上の情報発信に心がける。	B
		2. 生涯学習・家庭教育の推進	学びのとびらホームページや冊子に講座を掲載した。また、各種行事を取材し記録を残した。	記録写真の活用や資料・PRチラシの作成ができた。データの管理方法を確立する。HP等を活用し今まで以上の情報発信に心がける。	B
		チャレンジクラブの開催 1. 計画と参加者の募集	新型コロナウイルス感染症のため開催できなかった。	今後新型コロナウイルス感染症の感染状況を見て開催していきたい。	C
		2. 講師(町の先生)との連絡及び調整	60名ほど「まちの先生」の登録がある。新型コロナウイルス感染症のため令和3年度は開催できなかったが、講師と連絡を取り合い今後の協力を呼びかけた。	講師と繋がりを持ち意見交換や要望を開きより活性するように努める。新しい講師も増え発掘に努めているが、講師の中には高齢の方も見えるため、講座等に影響が出る可能性もある。	B
		社会同和・人権教育の現状の把握と推進 1. 研修会・講習会への参加	人権問題は様々な対処が求められるため研修会及び講演会へ参加しようとしたが、新型コロナウイルス感染症のため開催されなかった。	地域の実態や必要性を考慮し諸問題を解決できるような情報を取り入れる。	C
		2. 広報等を利用したの情報伝達	人権として扱う問題は多くあり広報誌等で話題や情報の提供を行う。	様々な問題についてより正確な情報を提供する。	B
8	社会体育 目標：生涯に渡って自らが楽しく実践できるスポーツ活動の推進	スポーツ教室全般に関すること。	新型コロナウイルス感染症のため開催できなかった。	今後新型コロナウイルス感染症の感染状況を見て開催していきたい。	C
		スポーツ大会全般に関すること。	新型コロナウイルス感染症のため各種スポーツ大会等を開催できなかった。	今後新型コロナウイルス感染症の感染状況を見て開催していきたい。	C

令和3年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
		スポーツ推進委員会に関する こと。	新型コロナウイルス感染症のため毎月は定例会を開 催できなかったが、スポーツ活動の推進や実技指導 の実施のため感染状況を見て定例会を開催した。	開催された研修に参加し知識を身につけている。今 後新型コロナウイルス感染症の感染状況を見てでき ることから行っていきたい。	A
		体育推進委員に関すること。	各地区より2名選任され、役割等を書面で周知した。	新型コロナウイルス感染症のため積極的に各地区で の軽スポーツの実施を呼びかけることができなかった が、今後新型コロナウイルス感染症の感染状況を見 て呼びかけていきたい。	C
		体育協会に関すること。	11種の種目部が登録し活動をしており、町長杯など 熱戦を繰り広げられた。	部員の高齢化や減少があり大会開催に影響がある種 目部もあるので、組織の体制強化や部員の確保に努 める。 しかし、コロナ禍でも種目部各自で活発に活動してい ただいている。	A
		スポーツ少年団に関すること。	3団体(剣道2・野球1)が活動しており、各種大会等 に参加した。	少子化・運動離れ等により団活動に支障が出ている。 スポーツ少年団の良さを子どもだけでなく、保護者 の方にも十分理解してもらうためにPRを強化して入 団者確保を図る。	B
		スポーツ振興推進協議会に関 すること。	14名の委員と事務局で構成。スポーツ振興の検討 や大会の運営に協力した。	大会の打合せや結果報告が主となっているので、各 団体と意見交換をし検討する。	B
		学校施設開放に関すること。	町内スポーツ団体が使用している。施設周辺の方に 管理人をお願いし鍵及び使用簿の管理を行ってもら う。	スポーツや地区行事等の会場として有効活用を促し ている。	B
		スポーツ施設管理及び使用申 込調整に関すること。	町体育館を1日1人の会計年度任用職員で管理して いる。町民運動場の草等の管理はシルバー人材セ ンターに委託した。使用申し込みの重複管理調整は 管理人及び事務局で対応した。	施設の老朽化が進んでいるが、安全に使えるように、 維持管理していきたい。	B